



芝浦工業会会報

第37号

2015(平成27)年12月1日発行
芝浦工業会 広報委員会

東京工業大学附属科学技術高等学校同窓会会報

全世代的な活性化を目指して

芝浦工業会会長 玉真 正美

今回は、広報委員会から芝浦工業会の中長期に亘る展望につき書くように、とのご指示を頂いております。この記事の執筆時点は、就任以来7か月でその間に幹事会が2回(5月、8月)あり、3回目が11月末に開催予定という時期です。その幹事会でも、今までに簡単な挨拶程度の話はしたものの、会の長期的な事項については特にお話しておりません。そのため、これから幹事会で検討して頂く事項を書くこととなります。

幹事会では、昨年来の動きとして幹事会の強化を最優先課題としており、新幹事に加わって頂くことを進めてきました。略10名ほど増員できそうですが、これから後の進め方は状況を見て決めていくこととなります。

幹事会の次には、会員の皆さんと幹事会との関係を一層強化することを考えなければなりません。会員あつての芝浦工業会であり、幹事会はそのために活動しております。これらにより、幹事を通じて全世代に幅広く分布する会員の総意を集め、“躍動感ある芝浦工業会”を実現できると考えております。

そして、会の活動は、“会員目線(会員のための芝浦工業会)を意識しつつ、幹事目線(幹事による幹事会)での運営”という方向取りを考えております。これが、芝浦工業会における民主主義であろうと思っております。

この方向で下記提案事項につき検討を進めようと思っております。

〈提案1の1〉芝浦工業会が持つべき会員向け機能(こころは、会則2条にある「会員の親睦に向けて」)

・**総合的プランニング(活動形態)を行う**：端緒として、会員参加型のイベントを開催することを考えました。開催には準備が必要であり、幹事会に諮ってイベント委員会を発足させ、具体的内容の検討を始めることとしました。早ければですが、来年夏辺りに第一弾を打てれば、と思っております。

・**活動内容の広報**：イベントが企画できれば、その内容を会報に紹介し、また結果を報告することとします。

〈提案1の2〉具体的事項

下記事項は、何れもまずは何とかやってみた上で方向を決めていく、という提案であり、出来る、出来ないを含めて検討することとなります。

(a) 上記イベント委員会を発信源とする親睦活動の検討

・**総会以外の定期的イベントも開催する**：2年に1回開く総会以外の、会員参加型イベントを開催し、会員の親睦を図ることを考えております。例1は講演会、写真、カラオケ、小旅行(ハイキング、自然観察)等の文化系活

動、例2は演芸会系、例3はキャッチボール、バドミントン、ボーリング等の軽スポーツつまり体育系活動、です。

・**さらなる検討事項**：会活動を、できればボランティアとかリクルートに結び付けられるか、を検討したいと思っています。

(b) 会員間の相互支援システム作り

・**仲間の知恵を活用する場の検討**：HPに(または実在する部屋として常時開設の)、会員広場を設けることはできないか、を検討しようと思っております。

(c) 各種情報の提供および相互交換の検討

・**「会員⇄幹事会の情報交換」**：これをより活発化するにはどうするか、が検討事項と考えます。例えば、①HPの充実(幹事会→会員、会員→幹事会)の検討、②会報の発行の仕方の検討(会費納入者への限定配布も)、③メルマガも視野に検討、があります。

(d) 会員データの活用検討

・**当会には、会員に関するデータがあります**。これを今のまま特に活用せずに置いておくか、ということが検討事項です。それには、①会員データをどう活かすか、②名簿の復活は、どうすれば可能か、③会員データをさらに充実させるにはどうするか、を吟味する必要があります。

〈提案2の1〉幹事会に関して

強化されつつある幹事会ですが、さらに検討すべき事項があります。それは、①幹事会内に現存する各委員会の充実(増員→業務分担→担当者制)、②各委員会の個別活動確立および各委員会の連携、等であり、各委員会を統括している企画会議を通じて検討を進めることとなります。

〈提案2の2〉事務局について

目下、母校の先生方に事務局を運営して頂いておりますが、この状態は何時までも続けていける訳ではありません。将来的に事務局機能を自前化する方向を見据えておき、当面は、母校の先生方への依存度を軽減する方向で進めることとなります。

以上、会活動の方向性およびいくつかの提案を並べてみました。それらにつき会員の皆さんがどうお考えかが最も重要な点です。ご意見をお寄せ頂ければと思っております。当会ホームページ(「芝浦工業会」で検索すれば直ちにアクセスできます。)には「お問い合わせ」欄があり、自由に書き込みができます。

〈提案2の3〉財政の安定化

会活動は、会費収入の安定によって初めて成立するものであり、常に財政基盤の状態に留意しつつ会運営を行う必要があります。

そして、もう一つ重要なこととして、会則2条にある母校への貢献です。これも、更なる充実を目指して検討する必要があります。以上

幹事会だより

総務委員会報告

総務委員長 伊藤 博

平成27年度4月度から10月初旬までの活動内容を以下にご報告致します。

☆幹事会

以下日程で芝浦工業会幹事会を母校内会議室で開催致しました。

- ・第91回幹事会（5月30日(土)）
- ・第92回幹事会（8月29日(土)）

幹事会では、芝浦工業会各委員会の活動報告、会則・規約の整備（案）審議の他、芝浦工業会活動の活発化策の討議を行っております。

尚、幹事会の補助的機能を持たせた企画会議を2回（5月2日(土)、8月8日(土)）開催致しました。

☆母校文化祭（第11回弟燕祭）への参加並びに母校生徒の課題研究表彰

- ・文化祭参加

10月3日(土)、10月4日(日)の両日参加し、スライドにて母校の歴史等の展示及び放射線に関する簡易実験と説明を行いました。

- ・母校生徒の課題研究表彰

芝浦工業会として、母校活動支援の一環として「在校生の課題研究活動支援」を実施しています。文化祭時にはその成果が展示・発表されており、芝浦工業会は独自にその内容を審査し（審査員・3名）、芝浦工業会玉真会長より表彰状と賞品を授与致しました。

芝浦工業会会長賞：応用科学

審査員特別賞：情報システム

芝浦工業会の現況と活動をご理解いただく為、従来に増して情報発信に努めると共に皆様のご意見を各種活動に反映したく思っております。忌憚のないご意見、ご指摘等をお寄せ下さい。

芝浦工業会活動の活性化には卒業生の皆様のご支援とご協力、更には積極的な参加が必要です。

宜しくお願い致します。

財務委員会報告

平成26年度（H26-4-1～H27-3-31）決算

1. 一般会計収支報告

収入の部		支出の部	
会費(860+193名)	2,104,200	委員会活動費	2,777,891
入会金(193名)	135,100	総務委員会費	546,176
懇親会費	183,000	広報委員会費	1,959,096
雑収入	3,216	データ管理委員会費	103,367
		財務委員会費	169,252
		運営費	375,267
		総会費用	173,517
		振込手数料	97,522
		交歓会等費用	102,308
		活性化PJ費用	1,920
収入小計	2,425,516	支出小計	3,153,158
前期繰越金	8,408,560	次期繰越金	7,680,918
収入合計	10,834,076	支出合計	10,834,076

2. 特別会計収支報告

収入の部		支出の部	
前期繰越金	8,345,796		
寄付金	75,500	次期繰越金	8,421,296
合計	8,421,296	合計	8,421,296

3. 平成27年3月31日現在の資産・内訳

資産		内訳	
現金	110,883	前受金	502,200
貯金口座	6,499,923		
預金口座	9,823,758	次期繰越金	16,102,214
仮払金	150,000	一般会計	7,680,918
無線LAN前払金	9,450	特別会計	8,421,296
図書カード	10,400		
合計	16,604,414	合計	16,604,414

平成27年度予算

1. 一般会計

収入の部		支出の部	
会費(1000+186名)	2,372,000	委員会活動費	3,070,000
入会金(186名)	130,200	総務委員会費	755,000
懇親会費	60,000	広報委員会費	1,920,000
雑収入	3,000	データ管理委員会費	217,000
		財務委員会費	178,000
		運営費	227,000
		振込手数料	117,000
		交歓会等費用	110,000
収入小計	2,565,200	支出小計	3,297,000
		特別準備金	5,000,000
前期繰越金	7,680,918	予備費	1,949,118
収入合計	10,246,118	支出合計	10,246,118

2. 特別会計

収入の部		支出の部	
前期繰越金	8,421,296		
		次期繰越金	8,421,296
合計	8,421,296	合計	8,421,296

会費振込について

芝浦工業会会員の皆様には、いつも会費を納入頂き誠にありがとうございます。納入頂きました会費は、母校の支援をはじめとする芝浦工業会の運営に役立たせております。

会費は会報の送付時に同封している「払込取扱票」にて振込を頂いていますが、最近2,000円以上の金額が振込まれる例が見受けられます。

この様な例については、誠に勝手でございますが、次のように取り扱いさせていただきますので、ご理解をお願い申し上げます。

●年会費2,000円の整数倍の入金については、会費の納入として取り扱います。

●整数倍の残りの金額については、寄付金として取り扱います。（例：5,000円の場合、2年分の会費と1,000円の寄付金。）

なお、すべてを寄付金として納入頂ける場合は、その旨の明記をお願い致します。

前回会報第36号と同封の「払込取扱票」からは、会費か寄付金かのチェック欄を設けましたので、ぜひご利用のうえ、今後とも会費納入にご協力をお願い申し上げます。

（財務委員会）



まっれがわだより ❶

昭和58年電子科卒 阿部 直子

栃木県に移り住んで、7年になります。「故郷」とは言えないまでも、ここで見、聴き、感じたことを「徒然なるままに」書き綴ってみようと思うようになりました。そうするよう背中を押してくださった広報委員長に感謝しています。拙いながらも誠実に記していきたいと考えています。

この広報誌は年2回の発行なので、この原稿が皆様のお目に留まる頃、すでに今年最後の月を迎えていることでしょうか。今回は、季節（とき）を速めてこれからの半年間の「色」をご紹介しますと思いました。

1月…雪は少ない地域ですが、朝霜で田畑は真っ白になります。正月、どんど焼き、少子化とはいえ、元気な子どもたちの声が真っ青な空に響き渡るのはいいものです。

2月…この土地にきて、初めて見たものは「鬼おろし」。何だと思いませんか？ それはそれは大きな「おろし金」のことです。正月に残った荒巻鮭の頭を豪快におろして、「しもつかれ」を作るために使います。しもつかれの語源は「下野カレー」先人の知恵で、鮭の頭のほかに、人参、大豆、大根などをやはりどろどろに擦って煮込みます。色は……他県の者にはちょっと…。関心ある方はネットで

調べてみてください。

3月…抜けるような青空に紅白の梅が香ります。昔から代々受け継がれてきた農家の庭先には、たいてい梅の巨木があります。特に美しいと思ったのは、しだれ梅のたおやかな薄桃色です。まだ冷たさの残るわずかな風に揺れる姿は乙女の恥じらい（すでに死語？）を思わせます。

4月…いよいよ大御所「桜」の登場です。お丸山公園（最初、このネーミングにびっくりしましたが、今はすっかり慣れてしまいました）は山全体が桜色になります。残念ながら、この前の地震でずいぶん地肌が崩れて、若木に代わってしまい迫力は少なくなりました。桜ロード、さくら堤、さくらにまつわる土地は枚挙にいとまがありません。先人たちが大切に守ってきたものがここにもあることを教えられます。

5月…一本の木をそのまま山から切ってきて柱にしたところに悠々と泳ぐ鯉のぼり。「ああ、この家には男の子の初孫が生まれたな」とわかります。知己の家ではなくても、なんだかその家族の笑顔が見えるようです。

6月…麦秋の時。辺り一面、収穫を待つ麦の黄金色で埋め尽くされる季節です。風になびく穂は、自分が大海原にいるような錯覚を覚えます。一年に2回、麦と稲の豊かな実りの色に心が満たされます。続きは、次回の号で。よろしく願い申し上げます。

ご不幸

— 謹んでご冥福をお祈りします —

■長谷川 浩一 殿（昭和38年電気科卒）

平成26年11月 逝去

■成海 正佳 殿（昭和41年建築科卒）

平成26年11月 逝去

■中井 治昭 殿（昭和36年建築科卒）

平成26年 8月 逝去

■古田島 十志雄 殿（昭和37年電気科卒）

平成26年 3月 逝去

■安藤 一末 殿（昭和22年建築科卒）

平成26年 2月 逝去

■宮田 習也 殿（昭和14年建築科卒）

平成26年 2月 逝去

■横尾 政利 殿（昭和22年機械科卒）

平成26年 逝去

■柴田 姜親 殿（昭和22年電気通信科卒）

平成26年11月 逝去

■片野 丈一 殿（昭和56年機械科卒）

平成26年 逝去

■山田 忠博 殿（昭和36年電気通信科卒）

平成26年 逝去

■森 隆久 殿（昭和21年金工科卒）

平成26年10月 逝去

■高橋 信行 殿（昭和33年機械科卒）

平成27年 1月 6日 逝去

■小浜 廉太郎 殿（昭和35年電気通信科卒）

平成27年 4月 逝去

■太田 人司 殿（昭和32年工業化学科卒）

平成27年 3月 20日 逝去

■田村 敏里 殿（昭和32年電気通信科卒）

平成27年 7月 4日 逝去

● 会費納入にご協力を ●

ご承知のように芝浦工業会は会員皆様の会費により運営されています。ほとんどがボランティアによる事業ですが、会報発行に大部分のコストが発生しています。現在、年2回会報を発行をしています。会報は約6000名の会員に送付していますが、会費納入者は約1000名です。1回の会報発送に約60万円の費用が発生します。そこで、芝浦工業会幹事会ではコスト削減の一環として、会費未納の方には年1回の発送にとどめる案が検討されています。早ければ、平成29年から実行する事が予定されています。全会員の皆様に会報を配布することが望ましいとは思いますが、このままでは致し方ないとの判断になりそうです。

つきましては会費納入に格段のご協力をお願いする次第です。

(広報委員会)

母校、野球部が一番輝いた年

昭和31年工業化学科卒 三瓶 洋

過日、田町駅に所用があり、時間があつたので何十年ぶりかで母校を訪ねてみた。夏休みに入っていて、生徒の姿は見られなかったが、グラウンドの前に立った。そこは…昔の面影はなく、一面人工芝に覆われた立派なサッカー場に変っていた。アレ？ 野球部は？



バックネットには〈学校長名〉で「グラウンド内で野球やソフトボールを行うことを禁止する」との警告があつた。この4、5年、全国高校野球選手権大会・東東京大会に母校の名前が見えなくなっていて、寂しい思いをしていたが、グラウンドまで無くなっていたとは…。尤も昔からライトに大きなフライを打つとJRの線路に飛び込み、何度か恐ろしい思いをしたし、高いネットを張っていて、野球のグラウンドとしては不向きではあつた。都心に大きな野球グラウンドはもう無理な時代になつたのだ。

昭和30年の夏（もう60年前になる）、修学旅行をキャンセルして、夏合宿に参加した。灼熱の太陽の下、真っ黒になって白球を追って…。勿論、甲子園を夢見て…。結果は〈成蹊学園〉に1対5で負けてしまった。1回戦での敗退だったが、〈神宮球場〉で戦えたのが、せめての慰めだった。

今回はこの年の話ではない。その前の年〈昭和29年〉の話ですが、もう1年さかのぼって記します。

私は昭和28年4月、工業化学科に入学しました。クラスは20名で、授業は化学の授業がほとんどで、国語、数学、物理、社会などの一般課程は1週間に1時間程度。3年間で、専門知識を修得させるという学校だったと思う。野球少年だった私は早速に野球部に入れて貰つたが、使用していたボールは今迄の〈軟球〉でなく、プロ野球と同じ〈硬球〉ですっかり魅入られてしまった。とは言え、3月生まれの方は15歳になったばかりで、しかも晩生（おくて）で、子供の身体だった。監督の小原毅先生（物理）も戸惑つたと思う。外野での球拾いか、合宿の時の炊事当番が主な役目だった。時々、バッティングをさせて貰つたが、稀に真っ芯を捕らえた時の感覚は何物にも替えられない気持ちだった。

この年の3年生は長身のエース長尾景紀さん（機械）。少々コントロールに難があつたが、豪速球を投げ込んでいた。1塁は梅沢功一さん（機械）。巨漢で当たればレフトの奥の電電公社の資材置場の屋根に打ち込んでいた。3塁手はキャプテンの猪原剛さん（機械）。もの凄く大人に感じた。もう1人の3年生、中山政明さん（電通）は外野手だった。その他のレギュラーは全員2年生だった。私の目には、凄いチームと思つたが、1回戦で〈成蹊学園〉に1対8で敗退してしまつた。

翌、昭和29年。この年が、栄光の年です。エースは湯尾竜夫さん（電通）、捕手は永田一精さん（電気）。2塁は御園生敏史さん（工化）。3塁は数井俊夫さん（電気）。ショートで4番バッターは岡崎英治さん（工化）。外野は足が速く、守備が抜群のセンター、茨田安弘さん、今井隆男さん（電通）。前年度のレギュラーが主力に残っていたし、2年生で1塁手の吉田満君（工化）が3番を打っていた。吉田君は私と同じクラスだが、身体は大きかつたし、中学時代から品川地区では有名な野球少年だった。エースの湯尾さんはコントロール抜群の横手投げ。結局1人で5回戦を投げ切つたのだから、本人もビックリだったのでは？ 1回戦は〈獨協学園〉に6対1で勝つと、2回戦は強豪〈帝京高校〉に1対0で完封勝ち。3回戦からは〈神宮球場〉になって、〈新宿高校〉を8対4で破り、4回戦も〈海城高校〉を3対1で下して、いよいよ準々決勝。対戦相手は強豪の〈早稲田実業〉だ。1塁に〈榎本喜八〉、捕手は〈醍醐猛夫〉、3塁は〈徳武定之〉と後にプロ野球で大活躍した選手がいたのだ。結果は残念ながら1対12で敗退したが、〈早稲田実業〉はその後、準決勝で〈日大三高〉を6対0、決勝で〈荏原高校〉を7対0で破って、甲子園へ。ここでも2回勝ち上がり準々決勝で〈高知商業〉に5対4で惜敗した。

〈早稲田実業〉は東京都予選で6回戦って1点しか失つてなく（母校以外の5回戦、全部0）、その1点を我が母校が挙げた、という快挙。これこそ！「母校、野球部が一番輝いた年」と言わずして、何と言うか。これを言うには、もう1つ、立派な証拠を次に挙げる。

今は便利な社会になっていて、インターネットで〈高校野球データベース〉というホームページから〈母校〉を検索すると、過去、昭和23年から平成21年迄の62年間の戦績を見ることが出来るのだ。結果は15勝62敗だった。私達の時代を含めて、62年間の内52回は1回戦で敗退していたのだから、残念ながらほとんどと言ってもおかしくない。では、2回戦にいったのは、7回。3回戦は（つまり2勝したのは）、昭和39年と59年の2年だけ。これでも立派だが、5回戦迄いった昭和29年こそ、〈最高！の年〉な訳なのです。と、誇りがましく記したが、残念ながら私は補欠にも入っていなかった。なので、記録は間違いないが、記憶の方を吉田君に補足して貰つた。ご協力に感謝致します。

ここで、栄光の年の次の年（昭和30年、私達の世代）の仲間達を明記しておく。前記の吉田満君はエースでキャプテンで4番を打ち、私もようやく大人の身体になっていて、〈神宮球場〉では「3番レフト三瓶君」とアナウンスされたのが唯一の誇り。3塁は北島清君、控え投手で外野も守つた鍵和田堅君（共に機械）、1塁手の久米谷東夫君（電気）、捕手の田中祥吾君、外野の中西眞次君、原口暉之君、2塁手の保科義和君（共に建築）。2年生で遊撃手の太田憲作君（機械）、サウスポーで控え投手と外野も守つた太田人司君（工化）。1年生で内野控への須藤彰孝君（工化）。

ここ迄、24名の方の名前を挙げたが、監督の小原先生のご逝去は会報で知ったが、はたして、何名の方がご健在だろうか？ 私が喜寿だから先輩は80歳になっておられる筈。長寿の社会、高齢化の社会と言われているが、我らの〈会報〉もリニューアルされて、親しみやすくな

りました。今回、該当の諸氏、ぜひ次の〈定期総会〉に出席されて、旧交を温めませんか。そんな総会もあってもいいのではないのでしょうか。何人が健在で元気に出席されるか、とても楽しみです。

幹事紹介

忘れ得ぬ恩師『酒井純先生』

昭和30年電気通信科卒 福田 又造

時は昭和26年春、第二次世界大戦が終結して5年、日本は平和を享受していたが、お隣朝鮮半島では南北を分けての戦争の真只中、日本は米軍の補給基地となりその補給の為の物資を生産するために、全国のメーカーは活気づいた。このようなとき昭和27年春に本校に入学し酒井先生との出会いがありました。



クラスは東京を中心に競争率十数倍の難関を潜り抜けた仲間が集って来た。でもなんといっても魅力は学費の安い事と教育方針だった。学校を取り巻く環境等は十分とは言えなかった。ホームルームは最低限確保されていたが校庭のあちこちには戦災の瓦礫が積まれており、また校舎の通路には旧軍関係の通信機器や米軍関係の通信機器が置いてあり私たちはそれらを興味深く分解したり改造していた。学校の外では芝浦埠頭が近くにあり正午になると大型船の汽笛がブォアと聞こえ海風が潮の香りを運んで来た。これらは校歌に（東京湾の黎明に光り…）と唄われている。

酒井先生には数学・電磁事象・無線工学等を基礎から応用まで解り易く教わりました。先生は教鞭をとるとき小道具として和弓の矢を用いて電流や磁力線の方向を矢先の●（チョコ）矢尻の⊕（ベケ）という具合にイメージし、3年生での数学では高校ではめったに取り組みない行列式の計算等その高度なことに、就職した企業の部長が驚いていた。

私は2年生1学期の終わり突然の発熱にレントゲンの撮影、当時国民病とも云われていた肺結核と診断され失意のどん底へ、結果として夏休みは安静療法に専念し2学期になっても登校できず、新薬として使われるようになった注射のスプレプトマイシン・飲み薬のパスを併用し、登校を可能にする為、気胸療法を積極的に取り入れた。そのお陰をもって2学期の末には登校が出来る様になったが、残念なことに出席日数が足りず留年か追試験かの選択を迫られた。

酒井先生が各教科の先生方を説得していただきどうにか追試験を受けることに、最低限の単位が取得出来ました。当時結核の治療は年単位の根気と時間が必要でした。治療を続けながらの高校3年、それまで朝鮮動乱の特需景気に沸いた日本経済は動乱の終結で一気に落ち込み当時の流行語『なべ底景気』と言われ多くの企業は新卒の採用には門戸を閉ざした。

私たち生徒は呑気に募集案内の来るのを待っている状況ですが、酒井先生は企業訪問をやっておりました。私自身は何社かの試験を受け学科試験は合格するのだが、二次試験の面接になると正直に病氣療養中の経過を話すと不採用ということが幾つか続いた。

もう諦めかけたところ、名が知れていない小さな会社であったが『日本真空時計株式会社』という会社が募集している、「福田君此处受けてみたらどうか？」と言われ幾人かの級友と試験を受けた。試験は学科、実技（回路の組立て半田付け）面接と一流企業並み。

得意な科目だったので難なくクリアした。面接では例によって闘病のことを話し完治まで3年位かかると話した。数日後酒井先生から呼ばれ日本真空時計合格してると伝えられ、ビックリ。嬉しく数日後、興信所の調査員の自宅訪問を受けたり3月1日からの出社（勤務）という多忙な日々だったが一番喜んで頂いたのが酒井先生でした。この会社に60歳定年まで42年間勤め上げた。後に聞いた事ですが、会社としても社員を募集するに当たって色々な学校に案内を出し予想以上の学生が応募してきた。その中でも東工大附属はレベルが高くて会社の将来の為に役に立つ。病気のことは幾分あるが絶対に今採用しておくべきだと幹部を説得していたとのこと…行列式など使える高校はめったにない…。

酒井先生には私たちの結婚式に、はるばる埼玉県熊谷市までお出で頂きお祝いして頂きました。

その後仕事も一段落、そろそろ定年の影もチラホラ見え出した頃、芝浦工業会の活性化という事で幹事の仕事を引受けて欲しいとの話があり、先生にお会い出来ると思い二つ返事で引受けました。しかし先生は既に退官されておりました。幹事会では名簿の再編と発行を担当しクラスメイトの人達の連絡に当たりました。

連絡の取れた数人と先生の所へお見舞いに行こうと言う相談が纏まりかけた矢先奥様から訃報のおしらせが入りました。お会いする機会を逸してしまいました。70歳という若さで早い旅立ち、もっともっと私たちを導いて欲しかった。

奥様にお聞きしたのですが、ご遺言として『死後のお体は医学のため献体する』と決めていたとの事。私も見習いたと思う昨今です。『合掌』

* * *

現在芝浦工業会では、幹事の若返りが行われ徐々に活性化して来た感がある。私は幹事の中では高齢者の部類に入ったが、傘寿を前にしてまだお役に立てると思ひ、会計監査の仕事をやっている。元気で続けられるうちはやるつもりです。よろしく願います。

◆学校・PTAとの交歓会

第91回芝浦工業会幹事会が終了した後で、本校の南側にあるグランパークタワー地下1階にある「百代茶屋」にて交歓会が開催されました。

学校側からは仲道副校長と3人の教職員・PTA側から相川友香副会長が出席して下さいました。今回は民間のレストランの1室を貸し切ってパーティ形式のバイキング料理で各人共になごやかに対話することができました。



母 校 だ よ り

附属科学技術高等学校長に就任して

校長 宮本 文人

今年の4月、校長に就任しました。東京工業大学建築学専攻の教授を兼務しています。専門は建築学の中でも建築計画という分野です。その中で、主な専門は、幼稚園から小中高等学校、大学までを対象とする、教育施設の計画です。この専門のお蔭で、20数年来、国際機関であるOECD（経済協力開発機構）の教育施設に関する会議に参加しています。

その中で、感じたことは、欧米の高校教育や大学入試に対する考え方が、日本とかなり異なるということです。日本のような厳格な大学入試制度がある国は、世界的にみても中国、韓国だけで、欧米にはありません。日本は、欧米からも経済大国で先進国として認められていますが、距離が遠いこともあり、欧米とは異なる独自の社会的規範で成り立っている国といえるかも知れません。

このような観点から、本校の大きな特色をいくつか挙げる可以考虑しています。

第一は、本校は、欧米諸国の高等学校と比較しても、いい意味で特別な学校であることです。ヨーロッパやアメリカには、大学進学を目指す高等学校についてみると、本校のように工学系専門分野があり、専門教科や一般教科の両方で先生方が揃っており、バランスの取れた教育を行っている学校はないと思います。日本国内でも唯一の学校です。

第二番目は、ヨーロッパでは、日本の大学の教養課程が大学入学前に終わり、大学では専門課程が3年間で行われます。

アメリカでは、高校時代に大学の単位を取得できる制度があります。本校では、大学の単位を取得することはできませんが、附属高校であるため大学との結びつきが強く、10数年にわたりレベルの高い高大連携教育が行われています。近年、多くの高校で高大連携教育が行われるようになりましたが、本校は、最先端の充実した高大連携教育を行っている学校といえると思っています。

最後に、日本では、多くの人が大学入試の実績や予備校などが作成した偏差値で高校を評価しています。そのため、多くの高校では、大学入試に備えた受験指導の教育が中心になっています。本校は、受験指導を中心に行っている学校ではありませんが、東京工業大学との特別入試に加え、他の大学での推薦入試やAO入試が増える中で実績を残し、近年、偏差値も高くなり、評価されています。しかし、日本の教育や入試制度が欧米のようになれば、もっと高い評価を受けると考えています。

本校の百年を越える伝統を大事にしながら、そして、東京工業大学や本校の先生方が協力しながら育て上げてきた本校の教育を継承し、さらなる発展を目指して、微力ながら、一緒に力を合わせていくことができると考えています。



宮本校長（左 バリ最古のピストロにて）

近 況 報 告

副校長 仲道 嘉夫

平成27年度の簡単な近況報告を致します。まず、本年度からSGH（Super Global Highschool）に指定されました。また、SSH（Super Science High school）は経過措置として指定されました。SGHは新しい活動、SSHは今までの活動を継続することになります。

SGHでは、新科目として、「グローバル社会と技術」「グローバル社会と技術・応用」「SGH課題研究」を開発することになりました。いずれも、現在の社会が抱えているグローバルな問題に科学技術の視点から取り組むこととなります。

そのような関係で社会経験の豊富な本校OBの皆様



はぜひ母校にいらしていただき、講演や各種ミーティング等で後輩に様々な経験等をお話しいただき、本校の教育にご協力いただければ幸いと存じます。

また、SGHの予算で外国人講師、国際交流アドバイザーを雇うことができました。これらの先生は授業、海外派遣前研修等で生徒とふれあい、英語力の向上や新鮮な刺激を与えてくれています。

このような新しい環境で、国際交流ではSSH、SGH合わせて、8/9-15 タイのカセサート大学附属高校に、8/9-15 フィリピンのデラサル大学附属高校に、8/13-19 KSASF（Korea Science Academy Science Fair）に行き参りました。また、韓国のサイエンスフェアでは金賞を受賞しました。このように在校生は物怖じせず、積極的に海外研修に参加して国際性を身につけてきたものと存じます。

それから、例年の文化祭でのタイ、フィリピンの生徒との交流を行いましたし、今年後半はシンガポールからの生徒の受入れ、Thailand-Japan Student Science Fairの参加、オーストラリアへの研修、立命館高校との台湾研修、横浜サイエンスフロンティアとのアメリカ研修などが予定されています。直接海外に行けなかった生徒達にもタイやフィリピン、シンガポールの生徒と交流がで

きるものと思います。

以上のように、OBの皆様がいた頃とは違った雰囲気
の学校になりつつありますが、このような研究プロジェクトに参加できますのも、本校OBのお力添えのおかげ
と考えています。これからも引き続きバックアップして
いただければと思います。

どうぞ宜しくお願い致します。

企業でご活躍のみなさま 母校での講演をお願い致します

副校長補佐 遠藤 信一 (昭55年電気科卒)

母校では、今年度よりスーパーグローバルハイスクール研究開発 (SGH) の指定を受け、科学技術系の素養を持つグローバルリーダー (グローバルテクニカルリーダー) の育成を目指します。もちろん、従来から取り組んできたスーパーサイエンスハイスクール研究開発 (SSH) 事業は継続され、科学技術系人材育成を学校の目的としておりますが、今般はそれに加える形で、新たなステージに立つこととなりました。

私たちがSGHで求める人材とは、たとえば、技術専門者をうまく使いながら、グローバル (広く海外) に生産・販売拠点を置き、リスクを回避しながら製品を生産し、流通させ、利益を上げる生産・販売計画を立案できることなど想定しています。もちろん、わずかな高校教育の時間のみで、高校生が激変するとは思いませんが、自分が目指すべき将来像をしっかりと見据えた上で高校/大学での教育に取り組めば、指示待ち体質を良としない人材を送り出すことが出来、私たちの研究開発が、成功したと胸を張れると思っています。

今回、母校よりお願いを致しますのは、企業で働いている、あるいはすでにリタイヤされている先輩諸氏の中で、国際的に活躍された経験のある方に、後輩へのご講

演をお願いできないか、いうことです。講師料は交通費 + α 程度しかご用意できませんが、高校生の気持ちが沸き立つご講演を期待しております。

- ・海外拠点の立ち上げ等で外国人とのコミュニケーションに苦勞された方
- ・これからの技術者は、国際化の中で何をすべきか、主張をお持ちの方
- ・企業で働く技術者のあり方について、特に経営の立場におられた方
- ・外国との取引に携われた方で、文化の違いで苦勞された経験がおありの方

など
国際社会に生きる、ということについて、お話し戴ける先輩諸氏を求めます。

また、母校では企業の見学を企画しており、国際的にご活躍の企業を見学させて戴きたいと思っております。実は昨今、見学を打診しても断られるケースが多く、困っております。母校の5つの分野 (学科) に即した業種で、会社見学、工場見学をお願いできる御社のご登録をお待ちしております。

上記の「求める人材」について、再度お読み戴き、ご関心がおありの方は、芝浦工業会総務委員会にご連絡戴き、可能なご講演内容等をお知らせ戴き、登録リストの中から母校とのマッチングを行います。

多くの方のご登録をお待ち致しております。

母校文化祭 (弟燕祭) 探訪記

各コーナー大盛況の2日間!

昨年は天候不順で閉会が早まるなど大変でしたが、今年は秋晴れの中、来場者も途切れることなく大変活気ある文化祭でした。

課題研究発表は後述しますが、1年生、2年生も趣向を凝らした出し物や飲食コーナーで、来場者を楽しませていました。昨年田町のB級グルメと称した飲食コーナーは、東附 (注) にも行列ができる名店が勢揃い! その内の1軒は「今田うどん」で秘伝 (?) のつゆが絶品。食べられた方はラッキーです。また毎年好評な柔道部の焼き鳥。今年は少し小振りの感じでしたが美味さはアップ。来年の弟燕祭には、同窓会で課題研究表彰だけでなく、東附のミシュランを決めたいと感じるほど (ありませんが)、毎年それぞれが趣向を凝らした軽食類を販売していました。毎年恒例になったフィリピンとタイからの交換留学生達も、自国の踊り、お菓子、オモチャなどを披露してくれました。

飲食コーナー (今田うどん) ▶

▼行列をしても食べたいグルメ!



タイ国のオモチャを作ろう ▶
(カセサート大学附属高校の留学生達)



ものづくりの本校らしく、来場者が楽しめる工作コーナーも未来の東附高生? 達に大人気。筆者も昔の思い出



工作コーナー（割り箸ゴム鉄砲）

にひたれたのは、割り箸と輪ゴムで作る割り箸ゴム鉄砲です。参加した子供達は、お兄さんやお姉さんの作り方を見ながら、割り箸と輪ゴムが沢山置かれた机の上で真剣そのもの。完成して鉄砲を構えたとき

の笑顔は素敵でしたよ。会員の皆様も童心にかえってお子様やお孫さんと作ってみませんか。作り方はインターネットに沢山載っています。

とにかく、毎年課題研究発表を含めて見どころ・食べどころ満載の弟燕祭です。会員の皆さん、来年は弟燕祭に併せて田町でクラス会兼母校見学を計画しませんか。（来年の弟燕祭日程は次号に掲載）

※注：在校生の間では、校名の略称として「東附」「Tofu」を使っているようです。弟燕祭プログラムにも有りましたので、本文の中でも使わせてもらいました。

◆課題研究へ会長賞



応用化学分野「ケムパーク」

情報システム分野
「カダイケンキュウ、翼を授ける」

建築デザイン分野



機械システム分野



電気電子分野

優秀な課題研究分野に贈る芝浦工業会会長賞の審査担当になって3年目。各分野の研究を見る目も肥えてきましたが、甲乙つけ難い研究が多くなり、審査側も人数を増やして2日間にわたり審査しました。

その結果、会長賞には応用化学分野・企画名「ケムパーク」に、次点の審査員特別賞には情報システム分野・企画名「カダイケンキュウ、翼を授ける」に決定しました。



会長賞授与

ケミカルサイエンスは見る者、聞く者には難しい分野で敬遠しがちですが、応用化学分

◆弟燕祭の入場門秘話◆

来場者を迎える入場門がアーチになっていましたが、文化祭実行委員会が夏休み前から設計・準備。高校生にとってアーチ構造への挑戦は難しく、全長2.6mのアーチを6ブロックに分けて製作し繋げるという工法により完成。建築デザインのみならず、機械システムや電気電子も加わり、アーチのテーマである「理の探求」を見事に表現しました。（弟燕祭プログラム中のコラムより抜粋）



野の課題研究では、優れたポスター展示と、説明者が常に見学者に対応し、熱意のあふれる説明をしており、審査員全員から高い評価を得ました。

新技術に挑戦したレベルの高い研究や、エコ、福祉などのテーマに積極的に取り組まれており、卒業生としても大変勉強させられました。

表彰は閉会式の中で、玉真会長より入賞分野の代表者に賞状と副賞が授与されました。

◆同窓会の展示・実演も好評！

同窓会も例年同様、PTAの会場の一部をお借りして、母校の歴史スライドと、昨年好評でした「放射線を見よう」のコーナーで展示・実演を行いました。

今年は「放射線」が上手く発生せず、担当者は苦勞していました。最終日の後半ようやく肉眼で見ることが出来て、来場者は熱心に覗き込んでいました。今回は2人がかりで対応してもらいました。

スライド上映では、ミニ学校説明会を兼ねて見学に来られた中学生の親子さんたちに関心を持ってもらえたようで熱心に見てました。希望された方には広報委員会作成の、新旧の本校の写真を印刷したマグネットプレートを進呈し、喜んでもらえました。



スライドコーナー

放射線コーナー

編集後記

今回は表紙の題字周りを5色で彩ってみました。ご承知と思いますが、この5色は各科のコースカラーです。各科の名称、履修内容は変わりましたが、5色は変わらず学校行事には使われているようです。何かホッとした気持ちになりました。

芝浦工業会会報 第37号
芝浦工業会広報委員会

平成27年12月1日

〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6

☎080-5502-0541

発行人 玉真正美 編集人 小林恒男 印刷所 (株)静和堂